

# 専攻科だより

— 生産1期生 2年間で振り返って —

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

本校に専攻科が設置され早2年が経ち、生産システム工学専攻第一期生も進路が決まり修了式を待つばかりになりました。平成17年度入学8名の学生のうち、4名が就職で4名が国立の大学院への進学です。第7号では就職組4名の体験談を掲載しました。今回お進学する4名の2年間で振り返った思いを掲載します。

## 生産システム工学専攻2年 大塚 哲弥

私は専攻科の2年間で多くのものを得ることができました。特別研究では専門的なことはもちろんのことその周辺の基礎学問を学び基礎学力の向上につながりました。その中で学会発表などによるプレゼン能力も格段に向上しました。更に専攻科の授業にもプレゼンが取り入れられており機械学会での学会発表にも多に役立ちました。更に Teaching assistant の経験は教えることと学ぶことの本質を少し見ることができたような気がします。そして未知の問題に対して問題解決の実行力と創造力を発揮する鍛錬を積むことができました。

専攻科進学当初は本科に比べ授業の質が高く課題も多くなり苦労しましたが、クラスが少人数で一人一人に対して教員がきめ細かい説明をしてくれたため、すぐに慣れることができやりのある授業に変わっていきました。今後、大学院進学でさらに質の高いことを学び苦労すると思いますが、専攻科の2年間で学んだことを活かして頑張っていきたいと思っています。長い間お世話になりました。

## 生産システム工学専攻2年 小林 聖

私は専攻科での2年間で大きく成長したと思っています。特に私に影響を与えたのは専攻科でも重点を置かれている特別研究でした。私の研究は『人間の上肢運動特性』であり、人間の反応をどの様に工学に活かすかという感性工学に基づく研究です。工学系ではかなり特殊な研究でしたので、研究を進めるには今までに学んでいない知識を多く必要としました。専攻科では、研究に費やす時間が多く、このような知識を自分で教科書を開き学ぶ時間があり、独自に理解を深めることができました。そのため、研究の本質を掴め、より質の高い研究を行うことが出来ました。また、学会発表を通じ他の研究に触れ、他者の指摘を受けることで研究に対する責任や向上心を与えられました。この2年間で知識とは必要となることで初めて学ぶことができると感じました。専攻科では研究に対する評価が高く、本科での研究を足掛かりにし、もう2年間深求することで自身を高め、それから社会へ出て

も遅くはないと思います。

## 生産システム工学専攻2年 清水 陽介

専攻科に入学して一番感じたことは、授業の形式の違いでした。本科の時と異なり、教えてもらうのではなく、自分で調べ理解する。そして授業で発表し、さらに理解を深めるといったような授業が多かったと思います。そして、このような授業により、発表する力、文献等を読んでまとめる力が大きく養われたのではないかと思います。

また、専攻科では特別研究のテーマに関する研究を学会で発表する機会も多く、これにより、研究のさらなる理解や疑問の解決の他、研究の問題点を教えていただいたりすることにより、非常に有意義な研究をおこなう事ができました。

私は今後、大学院に進学しますが、本科、専攻科で学んだことや、経験はきっと大学院というさらに高いレベルでの勉強や研究にもきっと役立つのではないかと信じています。

## 生産システム工学専攻2年 横田 耕一

私が電子機械工学科5年生の当初は、専攻科に進む予定はなく大学への編入学を希望していました。しかし、専攻科は一人に一人ずつ担当の先生が付いてくださり研究の要旨や勉強を丁寧に指導していただける他、授業においては少人数制であることから先生への質問なども積極的に出来るため学力向上に努めることができるということを諸先生方からお聞きし専攻科への進学を決意しました。

専攻科での2年間は専門科目の増加や一般科目の更なる応用などにより非常に苦労をしましたが、身近に質問できる先生がいたので充実した毎日を過ごすことができました。今後、私は大学院へ進みますが本専攻科で学んだことを十二分に活かしつつ社会に貢献できるような技術者になれるよう更なる努力をしていきたいと思っています。

最後になりましたが、専攻科でお世話になりました諸先生方をはじめ、共に学んだ同級生みなさんに心より感謝いたします。

## 平成18年度生産システム工学専攻・進学大学院

神	戸	大	学
徳	島	大	学
九	州	工	業
愛	媛	大	学